

2017年4月15日 発行

公益社団法人
福井県理学療法士会
News Letter
No. 177

発行人：福井県理学療法士会
〒910-0855

福井市西方 1-2-11 嶋田病院

会長：四谷 昌嗣

ニュース編集部：辻 大樹

会員数：863名

施設数：153施設

(平成28年6月30日現在)

出会いの力～恩師の言葉～

福井総合病院 竹下 和良

春といえば「新たな出会いの季節」。桜が咲き始め春の訪れを感じる季節に、生涯学習推進部の部長として依頼を受け、この原稿を書いています。原稿は好きなように書いて良いとのことですので、私を変えてくれた三人の恩師への感謝の思いと今後の抱負を書かせて頂きます。

恩師の一人は、柔道整復師養成校時代にお世話になりました竹内義享先生（元明治国際医療大学 教授）。竹内先生には、主に教育に関して学び、教育に関わることの面白さや人の可能性は未知数であることを学びました。また「三人の恩師を持って、同じ分野ではなくできる限り違う分野にて」という言葉を頂いており、おかげさまで教育、臨床、研究それぞれの分野にて恩師を持つことができました。もう一人は、松本和久先生（明治国際医療大学 教授）です。松本先生には、臨床に取り組む姿勢や患者さんと接する上での心構えを学びました。「治らないんじゃない、治せないだけ。時代が変われば、今の当たり前が当たり前でなくなる」。この言葉は、難渋する患者さんを担当する度に脳裏をよぎり、もっと良い方法や、違うアプローチがあるのではないかと常に考えるようにしています。最後の一人は、大学院の修士課程にてお世話になりました森岡周先生（畿央大学 教授）です。森岡先生からは、研究に取り組む姿勢や態度、燃えるように生きる心構えを学びました。また「行動のないところに、幸福は生まれない」という言葉を頂いており、自分が考えていることを言葉にするだけでなく、実際の行動に移していくことの大切さを日々感じています。

個人的な今後の抱負としては、竹内先生のように心に希望の光を灯すような人になり、松本先生のように臨床や患者さんに対して真摯に取り組んで、森岡先生のように真理を探究し行動し続ける人でありたいと考えています。生涯学習推進部の部長としての抱負は、具体的な活動案はまだありませんが、微力ながらも福井県理学療法協会の発展に尽力したいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。



福井県理学療法士会

2017年4月15日



施設紹介

福井メディックス株式会社 通所介護・介護予防通所介護
いなほりハビリサポートセンター 笠羽 彩

平成24年3月に、福井市江端町に開設し、4周年を迎えました。

食えること、運動すること、体を休めることを支援し、自分らしさを忘れずに居られる場所をご用意できるよう努めています。利用者様にとって、ともに過ごす職員のあたたかさが大切だと考えます。服薬介助・インスリン注射見守りや、経鼻栄養の補助が必要な、医療依存度の高い方もご利用いただけます。

理学療法士・作業療法士も送迎に出向くことで、ご自宅でのお困りごとをご家族とお話しするようにし、玄関や居室周りの動線や自宅内での動作も確認します。実りある生活を目指し、1日を通してすべてのかかわりの中でリハビリの視点を介護・看護職員に伝え、わたしたちの知らないことをたくさん教えてもらいます。

4月からは新しい総合事業が始まります。A型・C型・入浴など地域の方々のニーズに応えられるよう準備しています。

28年度は、多職種連携会議や地域個別ケア会議に参画させていただく機会にも恵まれました。これからも、介護の拠点として地域のみなさまから頼られるような施設・理学療法士となれるよう尽力してまいります。



2017年4月15日

Professional ~Style of works~

Profile

- ・氏名：中川 寛紀
- ・所属先：福井県立病院 リハビリテーション室
- ・修得資格：認定理学療法士（脊髄障害）
- ・経験年数：9年
- ・出身校：名古屋大学
- ・その他の資格：3学会合同呼吸療法認定士，
中級障害者スポーツ指導員，
認定理学療法士（脳卒中）



Questions

Q1 この資格を取得しようと思った理由を教えてください。

前職場(名古屋市リハビリセンター)では脊髄障害患者さんを担当する機会が多く、卒前教育の知識や、教科書だけでは全く治療のイメージがわからない経験がありました。そこで、脊髄障害に関わる研修会への参加や、脊髄障害関連施設の見学を行う中で興味が強まり、自己研鑽の動機づけとして取得を考えました。

Q2 この資格に関わる魅力を教えてください。

今のところ特に感じてはいません。医療広告ガイドラインの基準を満たして、外部にも発信していける資格になると嬉しいです。

Q3 この資格を取得して良かったと思うことを教えてください。

施設内で他スタッフから脊髄障害患者さんについて相談を受けることが増え、担当患者さん以上に、多くの患者さんの治療を経験・見学させてもらうことができ自分自身の研鑽にもつながるようになりました。また、資格取得に際して苦手な生理学や薬学の勉強するきっかけができたこと、「むしろ知らんことがいっぱいあるなあ」と改めて気付くことができました。

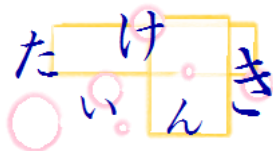
Q4 この資格を取得するために大変だった事などを教えてください。

先輩や他施設の受験者の方と集まって情報交換・指定研修の勉強をしました。試験よりも、びっくりするくらいレポート作成(脳卒中と合わせて20症例)が面倒くさかったです。ただ……レポート提出・試験が終わって解放されたと思ったら再提出になりました。

Q5 今後のセラピスト活動に対する計画や目標、希望などを教えてください。

専門家として、常に疑問を持ちながら研鑽を続けていきたいです。

2017年4月15日



あなたは災害時にだれをいつどのように助けますか？

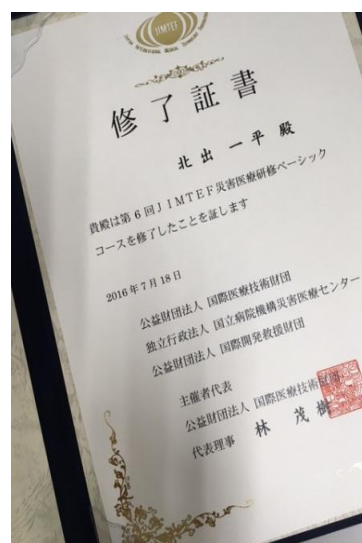
福井大学医学部附属病院 北出 一平

昨年某日、日本理学療法士協会から各都道府県士会に1つの通知があった。平成28年7月17～18日にJICA関西で開催される第6回JIMTEF災害医療研修ベーシックコースへの会員1名の参加要請である。参加者を探していた災害防災検討委員長の蟹本先生から、その矛先は身動きのとりやすい私に向けられた。開催場所が神戸で開催日が連休だったこともあり研修後の余暇を頭に浮かべながら引き受けたことがきっかけであったが、研修会に参加したことで全く無の知識で研修会に臨んだことを恥ずかしく感じるようになった。講義の大きな内容としては災害医療概論から始まり、災害医療の実際(東日本大震災/熊本地震)、急性期、亜急性期、慢性期に各職種として何が出来るか?であった。実際どのような動きをとったのか？



この職種はいつどのように動いて何をしたのか？また、その行動の時系列まで詳しく説明をご教授していただいた。参加者は全国から105名であり、職種としては理学療法士をはじめ、言語聴覚士、鍼灸師、鍼灸マッサージ師、管理栄養士、臨床心理士、作業療法士、柔道整復師、臨床工学技士、歯科技工士、臨床検査技師と様々であった。各職種が揃ったチーム作り、実際に指定された場所で地震があったことを想定してどのような方法でいつまでに到着できるかを考え、また、避難所運営をゲーム形式(HUG)で体験し未知の経験ができた。実際にその

ような現場に行くことがあるのであれば私たち理学療法士は何かできるのであろうかと深く考えさせられるものであった。先人たちの言葉として「備えあれば憂いなし」というものの何を備える必要があるかも考える必要があると考えさせられた。現在、福井県理学療法士会災害防災検討委員会では、災害防災マニュアル(①他都道府県で災害があった場合にどのように福井県士会として行動するか、②本県で災害があった場合、福井県士会会員の安否などをどのように行うか、③その他)の作成に向けて他県からの情報収集や今回の研修会参加のように努めております。福井県理学療法士会としましては、今後も本県会員にはこのような研修会参加の援助を行いますので是非御関心いただきますようよろしくお願いいたします。



平成29年3月作成

2017年4月15日

「第9回国際交流セミナー：世界のリングへ上がってこい！に参加して」

福井大学医学部附属病院 リハビリテーション部 理学療法士 庄司 一希 前 友理

去る3月3日、ひな祭りの日の夜に開催された第9回国際交流セミナーに参加した私たちの世界観は、この日を機に転換点を迎えることとなりました。これまで理学療法士として、国際交流に関わる機会はありませんでしたが、今回の成瀬廣亮先生と福井大学語学センター特命講師の逸見洋二郎先生の考え方・生き方を目の当たりにし、「行きたい場所」「やりたいこと」がはっきりしていれば、海外に出て夢を叶えることができる、それは想像よりも身近なことであることに気づかされました。

成瀬先生は、スコットランドでの学会発表の経験をお話されていました。自分が携わる研究を進める中で、興味を持つ学会が開催され、さらに共感した論文著者が参加されることをきっかけに学会発表されました。発表では、周囲からの高スピードの英語の質問に四苦八苦されたようですが、簡単な単語や身振りでも何とか意思を共有できたそうです。



逸見先生の発表は、突然の英語で始まりました。英語が喋れない私たちでも身振り手振りや簡単な英単語から内容を理解でき、最後のオチでは会場の皆さんが英語のジョークで大爆笑する展開となり、私たちの心は完全に驚愕にされていました。最初は戸惑いが強く、必死で聞き取ろうとしていましたが、話が終わると、日本語の話を聞くのと同様に話の内容にのめり込んでいる自分がいました。そこで逸見先生は「これだけ理解していれば、海外で通用します」と言われ、私たちが自ら国際交流に対して壁を作ってしまったのではと感じました。その逸見先生も最初は英語が喋

れない状況でアメリカに移住し、現地でボクサーになるという自分の夢を叶えようと必死に努力する傍ら、英語やアメリカ文化を学んでいました。言語や文化で大変な苦勞をされましたが、努力の甲斐あって、アメリカ人に英語を教えるレベルに達したそうです。

御二方の発表には、国際交流において、語学や文化等、様々な点で苦勞することはあるが、やりたいという気持ちがあれば、壁を越えて人に伝えられる、世界のリングで勝負できるという強いメッセージが込められていたように感じました。一人の理学療法士としてそして日本人として、まだまだ乗り越えなければならない課題や壁はあると思いますが、今回の二人の先生のように何かを成し遂げたいという強い意志を持ち、世界のリングで闘おうとするチャレンジ精神を持つことこそがその壁を乗り越えていくヒントになるだろうことを痛感させられました。私たちの世界観を転換させてくれたひな祭りの夜でした。

2017年4月15日

坂井ブロック研修会に参加して

(有)トゥモロズリハビリテーショングループ デイサービスセンター 木の花
酒井 諒平

平成29年2月26日、春江病院で開催された坂井ブロック研修会に参加させていただきました。

今回の研修は「機能的摂食介入アプローチ」という演題で、言語聴覚士の見目隼人先生に、「地域包括ケアについて」という演題で、言語聴覚士の中澤久夫先生にご講演いただきました。

見目先生の講演では、摂食・嚥下に関わる組織・器官の解剖や嚥下運動の運動学的分類や摂食・嚥下の流れといった基礎的な知識、アプローチとしての評価や摂食介助などについて実技も交えながら教えていただきました。理学療法士としては馴染みが薄い印象の演題でしたが、私達が勤務するデイサービスでは食事の提供も行っているため、食事姿勢や摂食動作の評価やアプローチにも介入していく必要があると改めて実感しました。



中澤先生の講演では、地域包括ケアシステムの概要や坂井地区の要介護者数、地域包括支援センター



の現状、地域におけるリハビリテーションの役割について教えていただきました。これまでは利用者様の身体機能面を中心に据えてアプローチを行っていましたが、活動と参加を含めたアプローチを長期的かつ利用者様の視点に立って考えていく必要があると痛感しました。

今回の坂井ブロック研修会に参加させていただき、地域リハに携る理学療法士として何が求められているのかを理解し、摂食・嚥下も含めた幅広いサービスを提供できるように日々精進していきたいと感じました。

第2回 坂井ブロック研修会に参加して

春江病院 リハビリテーション部 山田 智也

今回、理学療法士向けには機会の少ない「摂食・嚥下」に関する内容の「機能的摂食介入アプローチ 摂食嚥下の基礎知識と機能的な介助・介入法」についてトゥモロズリハビリテーション代表・言語聴覚士 見目隼人先生よりご講義頂きました。これまでの自分を振り返ると、言語聴覚士の介入している患者さんの摂食・嚥下に関して、十分な情報収集やスタッフ間の連携が不十分であったと感じます。また、ご家族にお会いした際に食事の事を尋ねられても説明を上手く行えなかったり、担当者に説明を任せて



しまう事もありました。今回の研修に参加し、摂食・嚥下に関する解剖的な知識や嚥下運動の仕組み、アプローチなどの基礎知識を学ぶことで、苦手意識を改めることが出来ました。また、実技による誤嚥体験を通して、機能障害を有する患者さんがどのような思いをして食事をしているのかを感じることで、より関心を高めることが出来ました。今後は、当研修にて得られた知識をさらに発展させ、これまでとは異なる新しい目線で患者さんに関わり合い、多職種との連携向上など日々の業務に生かしていきたいです。

2017年4月15日

スポーツ支援部の人材育成研修会感想

福井温泉病院 豊岡 静香

スポーツ支援部の人材育成研修会に参加させて頂きました。福井に来てから仕事、家事、育児と自分の事は後回しになり研修会に参加すること自体とても久しぶりでしたが研修会場が近かったことや、以前勤めていた病院でもテーピングを行っていたこともあり参加してみようと思いました。参加前は、どきどきしていましたがアスレティックトレーナーの先生がマンツーマンについてくださり丁寧にご指導していただきとても楽しく学ぶことが出来たと思います。実際にテーピングを巻く練習をメインにさせていただき何度も練習することで研修会が終わるころにはほとんど巻き方を覚えることが出来ました。テーピングは以前勤めていた病院でもよく行っていたのですがやはり1年以上行っていなかったのもあり巻き方を忘れていました。今回は、足関節中心のテーピングでしたが膝など他の部位の巻き方も勉強していき今後、いろんな場面で役立てればと思いました。



【編集後記】

子育て奮闘中の青木です。春になりましたね。春といえば出会いの季節ですね。第一印象が重要です。自分は眼鏡を買い替えてイメージチェンジを図ろうか検討中です。

賛助会員

ミナト医科学株式会社 金沢営業所 石川県金沢市金市町二 18 番 1	ハシノメディカル 小浜市千種 1-10-18
ツールケア 福井県福井市加茂河原 2 丁目 13-32-2B	有限会社 奥義肢製作所 福井県福井市二の宮 2 丁目
株式会社ミタス 福井市問屋町 4 丁目 901 番地	
順不同	